

着任の御挨拶



皆様、こんにちは！
キルギス日本センターに注目と関心を
お寄せ頂きありがとうございます。皆様ご
存知のとおり、日本センターの活動の目

的は、日本・キルギス間の経済協力の
発展、高等教育・経済・経営などの各分
野における優秀な人材を育成すること
です。

開所からの18年間、日本センターでは
様々な活動を活発に行ってきています。
ビジネスコース、日本語コース、若い企
業家向け研修やセミナー、日本文化紹
介のイベント等です。これの活動は全
て、キルギスにおける人材開発の一助
となっています。

現在、自社におけるスペシャリスト養
成とその活用の必要性を考える企業経
営者が増えています。我々の使命は、
社内で自身の潜在能力を存分に発揮
してビジネスに役立てるトップ経営者や
中間管理職を育成することだと考えて
います

常にビジネスコースの受講生の要望
に応えられるよう、一歩先を行くビジネ

スコースのツールと教え方を工夫して準
備しています。

日本センターの講師は各分野の専門
家であり、ビジネスコースの受講生と仕
事の経験や知識だけでなく、情熱も共
有しています。

日本センターの役割は、皆様に貴重
な経験を与えること、皆様に必要な人材
育成のお手伝いをする事だと考えてい
ます。いつでも日本センターにお越し
ください。

私は、日本センターの活動に関わる
機会が与えられたことに感謝し、皆様の
更なる支援をお願い致します。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

キルギス日本センター共同所長
コルバエフ・カナツト

日本センターでのインターンシップを終えて

秋の美しい10月1日のキルギスに降り立ち、雪の積もる11月
22日まで、キルギス日本センターでインターン生として受け入
れていただきました。

暖冬だった今年は冬の訪れが遅く、穏やかな気候で美しい
紅葉を楽しみながら、日本センターまで通っていました。

来るまでは、多くの日本人の例にもれず、私もあまりキルギ
スについて知りませんでした。きっと、ヨーロッパとアジアの間
にあるような顔の人がたくさんいる国だとしか想像ができなかつ
たのです。Webサイトや書籍でキルギスについて読みまし
たが、文面や小さな写真からは、本当のキルギスは見えなかつ
たのかもしれませんが。来てみるとまず驚くのは、ビシュケク
の街がヨーロッパの様であったことです。道路の幅の取り方、
緑の多さや公園、建物のデザインなど、旧ソ連の名残で
ビシュケクはヨーロッパ、あるいはモスクワの様でした。人々は
日本人に似た顔の人から、欧風の人まで一緒に住んでおり、
南アジアからの留学生もよく見かける、本当に多文化な国で
した。水が豊富な国で、生活もしやすく、食べ物もアジア風
のものから肉や乳製品を中心としたものまで、ユーラシア大陸
を凝縮したおいしい食文化でした。さらに、宗教はイスラム教
徒が多いとは言いますが、ベールをかぶる人は少数で、
ミニスカートにブーツといった、日本人でも見慣れたファッション
が一般的で、宗教による壁は感じませんでした。人柄も、穏
やかで、「太陽の子ども」と言われるキルギス人には納得でき
るほど、皆さんかわいい人々でした。人と会う度、さまざまな
民族アイデンティティがあることも見えてきます。キルギスも中央
アジアとして多民族国家としての課題を抱えつつ、皆で一つ
のキルギスを生きていることが見えてきました。

お世話になった日本センター
には、毎日多くのキルギスの人
がやってきては、文化講座や日
本語講座を受講し、また太鼓ク
ラブなどもあって、活発に日本と交
流しています。日本センターで
働く日本人も、キルギス人と仲良
く日本文化を教えていらっしゃる
ました。キルギスの人であって
も、日本文化に熟達して講師を
していらっしゃる、イベントが盛りだ
くさんで、日本センターは毎日パ
ワフルに活躍しています。

オフィスも毎日颯爽とした時間
が流れ、スタッフ皆様さわやか
にお仕事をされています。日本
人スタッフも、キルギス人スタッ
フも、ロシア語と日本語、時には英
語で相互に話し合い、国際的で
す。キルギス人同士では時にキ
ルギス語も聞こえてきて、日本人
であって知っているキルギス語で
挨拶をしたりするなど、相互の理
解を大切にされたオフィスでした。日本センターでの爽やかで
刺激的な二ヶ月間、本当にありがとうございました。

同志社大学グローバル・ステディーズ研究科 米川安寿



日本留学フェア2013の開催

11月18日(月)にキルギス国立総合大学(KNU)、19日(火)にビシケク人文大学(BHU)において、2013年度日本留学フェアを実施しました。

キルギスで4回目に当たる今年の留学フェアでは、国際大学、筑波大学、早稲田大学の3大学に加え、在キルギス共和国日本国大使館、JDSプロジェクト事務所によるプレゼンテーションと個別相談会

が行われました。

新聞「タ刊ビシケク」広告、日本センターのHPやFacebook上の記事、関係機関に掲示したポスターを見て、または知人友人からフェア開催を知った大学生・高校生・一般人が、18日には約240人、19日には約320人来場しました。

プレゼンテーション後の質疑応答セッションや個別相談会では、各来場者が関心

を持った大学や日本国大使館、JDSプロジェクト事務所のブースで活発に質問をしていました。

アンケート結果では、「日本留学への熱意が強まった」、「必ず日本留学をしようと決心した」などの回答が多いことから、多くの来場者がフェア内容に満足しており、今後、実際の日本留学につながる事が期待されます。



ビジネスコース

日本のホスピタリティー



10月6日、マナス国際空港において、空港公団の職員に対して日本センターのビジネスコースが実施した「ホスピタリティー(利用客へのサービス)向上コース」の修了証書授与式が行われました。

10月22日から11月1日まで行われた本

トレーニング中、マナス空港の業務改善委員会の設立という提案が、空港公団職員からなされました。それに対し、日本センターから引き続き協力が可能である旨の申し出がなされました。

高坂共同所長は、「マナス国際空港

コースの講師は、民間航空分野で20年の業務経験と、日本の航空会社や空港へのカウンセリングの豊富な経験を有する寺村専門家が務めました。

マナス国際空港でのトレーニングは今年の7月初旬に続き2回目であり、講義の目的は空港職員のホスピタリティーの向上でした。

活動予定

今後の行事について詳しい情報をホームページでご覧いただけます。

www.krjc.kg

[Facebook.com/KRJCKG](https://www.facebook.com/KRJCKG)

2月

ビジネスコース修了生組織(Gクラブメンバー)の定期会合を実施。

3月

ビジネスコース「エグゼクティブ・コース」受講者の募集

実践的経営管理コース(ミニMBAコース)受講者の募集

ビジネスコース

は利用客サービスの面で中央アジア随一の空港になる大きな可能性を秘めている」ことを同授与式において強調しました。

また、11月26日、キルギスタン航空の職員に対して、「ブランディング」と「ホスピタリティ向上」というテーマで一連のトレーニングの修了証書授与式が行われました。

キルギスタン航空の経営陣と複数部署の職員は、会社のブランド創設と発

展についての実践的な知識を得、ホスピタリティを改善するための研修を受講しました。

日本センターは、キルギスタン航空の主なパートナーとして、日本から派遣された専門家による様々なトレーニングを提供しています。

修了式では、ビジネス経営各分野におけるKRJC専門家の知識・経験を伝達することによって、キルギスタン航空職員のプロ意識を高められたこと、また、将来も協力関係を継続する方針が、両



者によって確認されました。



ビジネスコース修了生によるセミナー

12月13日、日本センターのビジネスコース修了生ウラン・ジュマシェフ氏を講師に迎えて「顧客との関係管理(CRM): 理論と実践」に関するセミナーを実施しました。

セミナーでは、キルギスにおける実際の

ビジネス条件の中でCRMシステムを導入して効果的に活用する方法について語られました。このセミナーでは「会社におけるCRM哲学」、「情報システムとしてのCRM」についても議論がなされました。

ビジネスコース初の試み「エグゼクティブ・コース」

11月、企業経営者のための新コース「エグゼクティブ・コース」を新たに開講しました。

3週間、「戦略的マーケティング」、「生産品質管理」、「人材育成管理」の3科目の講座が行われました。

このコースの特徴は、講師陣がビジネス専門の日本人コンサルタントのみで構成されている点です。コースでは、日本と世界のケース分析に基づく最新の経営手法が紹介されました。

コース終了後、自身の企業で社員トレ

ーニングを行う形でのトレーニング継続を依頼した受講生もいました。

次回「エグゼクティブ・コース」の募集は、来年の3月に始まります。

第14期実践的経営管理コースの終了

12月26日、第14期実践的経営(ミニMBA)コースが終了しました。9月中旬から12月下旬までの3ヶ月間、約60名の受講生達は、「生産・品質管理」、「マーケティング」、「財務分析」等の分野について学びました。今回のミニMBAコースでは、新科目「ソーシャルメディアを活用したマーケティング」が新しく導入され、講師と受講生と日本センタービジネスコース職員の間でのコミュニケーションツールとし

てFacebook上のグループを活用し始めました。

今回も、コース修了式には在キルギス共和国日本国大使館とJICAキルギス事務所からの来賓を迎え、修了生たちのビジネス成功が祈念されました。

ミニMBAコースの修了生たちは、自動的に修了生組織「Gクラブ」のメンバーになります。クラブの一員になることで、センター主催のセミナーに参加すること

ができ、有料イベントの参加料が割引されます。また、修了時の成績優秀者4名が、訪日研修に参加できます。

12期と13期のコース修了生の中から、以下の6名が2014年3月の訪日研修に参加する予定です: スタニスラフ・ザイツェフ、アザット・トゥルバトフ、アリヤ・イシムハメドワ、アセリ・カディラリエワ、ヌルザット・フサイノフ、ベルメット・ディイカンバエワ、リーラ・アシリベコワ、アンドレイ・チョウ。



日本語コース

ジュニアコース

10月～12月日本センターでジュニアコースが行われました。

このコースの目的は子供たちに日本語・日本文化を真剣に教えることではなく、日本語・日本文化に触れ、興味を持ってもらうことと日本語で簡単な表現ができるようになることでした。このコースで初めてJFスタンダードも少し入れ、教材は新しい教科書「まるごと・日本のことばと文化」から一部を抜粋し使いました。最初は6回の短期コースを予定していましたが、子どもたちの希望で更に6回のコースを行いました。日本語既習者に限らず新しい希望者も受け入れられるよう

に、カリキュラムを工夫しました。

このコース全体で子供たちは日本語の特徴を知り、簡単なフレーズが言え、他にも日本についてたくさん情報を得ました。コースを受講したのは9歳から12歳の子供たちで、子供に教える機会の少ない日本センターの教師にとっても、貴重な経験となりました。

このコースがこれからキルギスの子供たちが日本への関心を持つための良い刺激になるよう私たちは頑張りたいと思っています。

2014年の春にジュニアコースを再び行う予定です。



日本語能力試験

12月1日(日)、ビシケク人文大学でキルギスで6回目の日本語能力試験が実施されました。在キルギス共和国日本国大使館とキルギス日本語教師会の協力で行われました。試験の受験者は217名のうち、1級は17名、2級は19名、3級は66名、4級は42名で5級は73名でした。受験者数は年々増加傾向にあり、今年も地方からの受験者もいました。

一人でも多くの合格者が出ることを期待しています。

JF講座優秀受講生の日本訪問

11月6日から20日にかけてJF日本語講座中級Ⅱクラスの受講生カラタエフ・マラットさんが日本研修に行ってきました。今年からJF日本語講座の優秀な学生が2週間の日本研修に行けることになりました。マラットさんが今回初めてキルギス代表として日本に行き、体験したことについて以下のような感想を述べました。

「私ははじめて日本に行きました。その時日本の天気はどうなるかなと心配して、たくさん暖かい服を持って行ってあまり役に立ちませんでした。日本はキルギスより暖かくて、雨もよく降ります。本当にびっくりしたことは日本人の作法でした。または、関西空港で体温をはかる器具でした。他の国ではこんな器具が見たことがありません。私はこの2週間、とても楽しい毎を送りました。小学校に行ったら私は本当にびっくりしました。小学生は全員で礼儀正しく立ち上がり、日本の歌を数曲とても上手に歌ったのです。給食を食べながら日本の小学校をなかからみたのはいい経験になりました。ホームビジットで食べた本場、大阪の焼きそばの味、これも国の友人に伝えなければなりません。クルマがあるのに自転車を

つかう日本人・駅の前の自転車の数！まあキルギスでしたら10分でぬすまれますけど・・・横浜に行こうとして電車にのりましたが、そのとき私はわからなかったのですが、となりのおばあちゃんが私に『あなたは外国人ですね』と言われました。『ああそうですよ。それがなにか』とこたえました。『あなたね これは女性だけの電車なのよ』といったのです。まわりを見ると、たしかにすべて女性！！うーはびっくりして次の駅でとびおりました。この研修をととして、今まで知らなかった日本をかんじられただけでなく、日本語も上達し、将来の目標もはっきりさせることができました。私は日本へ行くことができたのは、いろいろサポートしてくださったみんな様のおかげです。山口先生、KRJCの先生たちとスタッフの皆さんにまことにありがとうございます。」



活動予定

今後の行事について詳しい情報をホームページでご覧いただけます。

www.krjc.kg [Facebook.com/KRJ.C.KG](https://www.facebook.com/KRJ.C.KG)

1月、3月
「日本語でプレゼンテーション会」
2月
「日本語で遊ぼう会」
2月～3月
ジュニアコースの募集
3月
キルギス日本語弁論大会

中級Ⅱクラス
カラタエフ・マラット

日本語コース

「日本語で話そう会」のリニューアル

「日本語で話そう会」開催の開始から2年半が経ちました。会の効果を高めるために、10月「日本語で話そう会」をリニューアルしました。月に1回、ネイティブスピーカーと話して交流することに重点を置いた「日本語で遊ぼう会」形式で開催します。その翌月には、日本語文法に重点を置いた「日本語でプレゼンテーション会」形式で開催します。

10月24日、「日本語で遊ぼう会」のテーマは「ファッション」でした。会の参加者達は、日本とキルギスの現代ファッショントレンドについて話し、クイズにも積極的に参加しました。そして、着物を着る女性が身に着ける簪(かんざし)を使い、数秒間で美しい髪型を作り合う練習もしました。今回は簪の代わりに鉛筆を使用しましたが、十分美しい髪型ができました。

11月19日に開催された第1回目「日本語でプレゼンテーション会」には、日本センターの日本語コース受講生、KNUの学生、同志社大学院生(日本センターのインターン)等、計27人が参加しました。今回の会では、「私が見た日本」、「キルギスの美容事情について」、「ネパールのエコ活動について」等のテーマで興味深い発表がなされました。発表終了後は参加者からの質疑応答や意見交換、ディスカッションがあり、大いに盛り上がりました。次回のプレゼンテーション会で発表したいという希望者も多かったです。

12月17日、「日本語で遊ぼう会」の参加者は、かるたなどの日本の伝統的な正月ゲームをしながら、新年を迎える心の準備をしました。かるたゲームをするためには、記憶力、注意

力、知力が求められます。この日、日本のお正月についてのDVDも観ました。

最後に、日本センターのリニューアル版「日本語で話そう会」に参加してくださった皆様に感謝します。今後も皆様のご参加をお待ちしています。



相互理解促進事業

運動会の実施

11月7日、キルギス国立総合大学の体育館で運動会を実施しました。

約60名が3時間、日本の運動会でおなじみの二人三脚や綱引き袋飛び等のゲームを楽しみました。

参加者達は、久しぶりに走ったり、ジャンプをしたりして、一つのグループになって頑張る気持ちを思い出したようでし



活動予定

今後の行事について詳しい情報をホームページでご覧いただけます。

www.krjc.kg [Facebook.com/KRJC.KG](https://www.facebook.com/KRJC.KG)

2月

「書初め」

短期コース「日本の文化と伝統」: 書道、手まり、浴衣着付け、茶道、折り紙、ペーパークイリング、その他

3月

中学生向けの「ひな祭り」

『音楽祭2013』の開催

11月30日(土)、ビシュケク市にある青少年センター「SEITEK」にて『音楽祭2013』を開催しました。5年ぶりの開催とあり、開催前からキルギスの人々の関心は高く、日本センターにも多くの問い合わせがありました。

当日は天候にも恵まれ、開場前から多くの人が来場し、600を超える座席はほぼ満席の状態になりました。

キルギスの参加者による日本の音楽の演奏や、JICAボランティアによるキルギス音楽の演奏や演舞は、来場者の方々の心をしっかりとらえたようで、大江戸太鼓グループがアンコールに応える場面もありました。

日本センターでは、今後もキルギスと日本の文化の相互理解促進のために、皆さまに喜ばれるイベントを企画、開催したいと考えております。



「餅つき大会」の実施

12月21日、毎年恒例のイベントになった「餅つき大会」を開催しました。

天気が心配された当日、太陽が出たものの気温が低く、外はとても寒かったです。それにもかかわらず、イベント開始前に会場には、大人から子供の多くの参加者が集まり、杵と臼による伝統的な餅つきを体験する姿も見られました。人々は次から次に出来上がる餅の味を

楽しみ、特にイソベ巻き(醤油味に焼きたり)が人気があり、あっと言う間になりました。

日本では、昔から新年を迎える前の大切な行事のひとつとして、年の暮れの数日間に餅つきが行われてきました。また、祭や通過儀礼の際に、神聖な餅を食べることで神の霊力を体内に迎え、人間の生命力の再生と補強を願

ったと言われています。

日本センターでは様々な日本文化紹介イベントを開催していますが、その中でも「餅つき大会」は日本の伝統行事を伝えるだけでなく、餅という食べ物の役割を伝える機会となっています。



「日本紹介:観光と文化」コース

12月6日、日本センターで新しく実施した「日本紹介:観光と文化」のコースの最終回が行われました。このコースは、JICAボランティアがプレゼンテーションの形で日本を紹介する講座です。講座は全部3回で、日本の相撲、歌舞伎、芸者、侍、京都、東京、富士山への旅行、エコツアー

ムのテーマで発表が行われました。

発表内容は富士山では4つの登山コースがあること、日本へ行くチャンスがあったら、どこでどんな特別な物を食べてどんなお土産買ったら良いかなど、日本を初めて訪問する人々にとって役に立つ情報が満載でした。また、歌舞伎や相撲は観戦可能な場所の情報提供だけ

でなく、歌舞伎の衣装と隈取の種類、相撲の世界での力士の生活などについての興味深い説明がありました。

発表の後に受講生たちから色々な質問がなされ、終始、和やかな雰囲気でした。コースが行われました。



編集者より:

キルギス共和国日本人材開発センター(KRJC)のNews Letterは四半期に1回発行しています。News Letterでは、KRJCの活動報告と今後の行事についての記事を掲載しています。次回のNews Letterでは、ビジネスコース講師のインタビューを掲載する予定です。

編集者:

西川直子(業務調整員)、サグデフ・オクサナ(シニア・マネージャー)

Kyrgyz Republic Japan Center for Human Development

KNU, Building 7, Floor 2, 109 Turusbekova Street.

Bishkek tel. +996 (312) 906580, 906581

e-mail: krjc@krjc.kg www.krjc.kg facebook.com/KRJC.KG